

『両性具有 独占欲ラヴァーズ～映画館の暗闇で隙間から兄弟の指が...～』

著：秀 香穂里

ill：いけや

「ほんと、仲いいですよねふたりとも」

「えー？ こんな陰険兄貴と仲がいいなんて冗談だろ」

「私も遠慮願いたいな。……と言いたいところだが、彰仁さんを愛し合う仲間としては、まあそれなりに認めてやってもいい」

「あんたもな」

ふっと鼻で笑う弟に、章吾は仕方なさそうに笑っている。

そうこうしているうちにシアター内は人々で埋まり、いよいよ映画が始まった。ハリウッド映画で恋愛ものを観るなんて、あまりないんじゃないだろうか。章吾が選んだのだからと期待に胸を高鳴らせていると、開始五分でヒロインが全裸になった。

「な……っ」

目を丸くする彰仁と龍一は映画に釘付けだ。年の離れた男性に恋をしてしまった女性の話なのだが、のっけからいきなりセックスシーンだ。

黒い下着を淫らに脱いでいくヒロインの形のいい胸が揺れ、やがてふたりは繋がり、セックスを愉しむ。シアター中に喘ぎ声とベッドの軋む音が広がり、いたたまれない。

そっと隣を窺うと、章吾はスクリーンにじっと見入っている。反対側の龍一も。

自分だけそわそわしているのかと思ったら、恥ずかしくなってきた。

もっと真面目な気持ちで観なければと姿勢を正したときだった。

手が、伸びてきた。しかも両側から。

「っ、……！」

暗がりの中、章吾と龍一の手はぶつかり合い、威嚇しながら、手早く彰仁の前をくつろげていく。

どうしよう。こんな場所で触られて、おとなしくなんかしてられない。一度は彼らの手をそっとはねのけたけれど、やっぱり忍び寄られて、はぁ、と甘いため息を漏らした。

「少し……腰、浮かせ」

「ん……でも……」

低い囁きにぼんやり頷き、腰を浮かせる。すると、左隣の龍一の手がジーンズをゆるめて、スキャンティの割れ目からびくんと育つ肉茎を取り出し、ゆっくりと扱き出す。

「……あ……」

視線はスクリーンに向けていても、息を切らしてちらっと見下ろすと、先端をじわりと濡らした性器に大きな手が絡みついでいて、ひどくいやらしい。

どうしよう、とまたも胸の裡で繰り返す。こんなところで擦られたら、周囲にバレてしまう。

すると、右隣の章吾が顔を近づけてきて、彰仁のこめかみにくちづけ、スキャンティの縫い目をなぞったあと、龍一が弄るペニスの下を通して、肉芽をつまみ上げた。

ぴゅく、と根元から少しきつめにクリトリスをよじられて、彰仁は必死に手すりを掴んで喘ぎを殺す。さっき交わったばかりだから、まだ身体中に熱が残っていて、どうにかなりそうだ。

「私の愛撫がお気に召したみたいだ。こんなに膨らませて……可愛いひとだな。ここが映画館じゃなければ、丹念に奥まで舐めてあげるんですが」

「ん、……っあ、だめ、……そんな——章吾さん、くちゅくちゅしたら……ッ」

身をよじる彰仁は二箇所を同時に攻められて、夢見心地だ。シャツの下では、乳首がっらいほどに尖りきっているような錯覚に襲われる。

作品の詳細や最新情報はダリア公式サイト「ダリアカフェ」をご覧ください。

ダリア公式サイト「ダリアカフェ」

<http://www.fwinc.jp/daria/>